

概要

次第1：市民活動関連施設視察（さいたま・立川）ふりかえり

〔内 容〕：事務局および視察参加者からの視察報告

〔資 料〕：資料7，8，9

〔要 旨〕：

(1) さいたま市市民活動サポートセンター視察のふりかえり

①視察日：平成21年11月23日(月)

②参加者：6名（市民3名、関係者1名、事務局2名）

③視察施設

名 称：さいたま市市民活動サポートセンター

所在地：さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

運 営：NPO法人さいたまNPOセンター（指定管理者）

④事務局からの報告

駅前商業施設（パルコ）の中の複合公共施設の9階に位置し、約2年におよぶ市民、行政協働のワークショップを経て開設した。フリースペースは、市民活動団体『専用ゾーン』と『優先ゾーン』とに分かれているが、優先ゾーンの利用者は狭く限定せず、高校生の勉強も可。市民活動に関りのない人の利用であっても、将来的に市民活動に発展する可能性を期待してのこと。また、施設内での飲食は、飲食自由な場所と飲み物が自由な場所に分かれており、飲食自由なスペースでは、乳幼児をもつお母さんグループが昼食を取りながら談笑するという使われ方もしている。ロッカーやメールボックスの設備や、紙をはがして持ち帰れるボランティア情報コーナーがある。メールボックスは私書箱利用も可能で、DV被害者の会なども安心して利用できる。

⑤視察参加者からの報告

- ・浦和パルコの9階にサポートセンターがあったので、驚いた。
- ・飲食自由なスペースで、小さな子を持つ母親グループは、パルコでお弁当を買ってきて、子どもたちと一緒にサポートセンターで食べ、1時間程度で帰るといことができる。
- ・大きなロッカーや、カラー印刷機の設備はうらやましい。

(2) 市民活動センターたちかわ視察のふりかえり

①視察日：平成21年11月27日(金)

②参加者：23名（市民17名、関係者2名、事務局4名）

③視察施設

名 称：市民活動センターたちかわ

所在地：立川市富士見町2-36-47

運 営：立川市社会福祉協議会（委託）

④事務局からの報告

施設の前身はボランティアセンター。ボランティア活動をしたい個人と、活動者を受け入れる団体との橋渡しを行ってきたが、次第に団体単位での相談内容が増えてきた。これに対応するために、従来のボランティアセンター機能を拡充する形で『市民活動センターたちかわ』へと生まれ変わった。

現在 124 団体が登録。登録は 2 年更新で、登録要件は、公益的活動を主たる目的とする団体に限定。フリースペースは 10 席程度で、自由に無料で利用できる。無線 LAN が整備されており、相談カウンターからパソコンを借りて、作業をすることも可能。図書コーナーには市民活動関連書籍が並べられており、貸し出しも行っている。印刷設備としては印刷機、紙折り機、帳合機などが備えられており、ひと通りの作業が可能になっている。ボランティアルーム 2 部屋は利用無料。

⑤視察参加者からの報告

- ・施設が古く、故障機材も見受けられた。垂れ幕印刷ができる機械があったが便利だと思う。
- ・社会福祉協議会の理事が運営委員会の委員長を務め、運営委員会の意思と社会福祉協議会の意思が対立、矛盾することが少ないように組織構造を工夫していることが興味深い。
- ・貸し出し用のパソコンは、地元企業から寄付されたもの。モノを通じて団体間ネットワークが生まれ、コーディネーターが調整で力を発揮している。
- ・「どんな市民の相談でも受けている」という視察先の担当者の話が印象に残った。市民が気軽に自分の希望を言える場であることは大事。しかし、どこまでの相談を受け入れるか、線引きが難しい。

次第 2 : アクティビティ (ブレインストーミング) 「市民活動フロアでしたいことを出し合おう」

[内 容]: 小グループでのブレインストーミング

[概 要]:

- (1) 目的: 武蔵野プレイスの市民活動フロアの機能やあり方について、できるだけ多くのアイデアを出し合うこと。まとめることではなく、様々な考えを出すことが目的。
- (2) 方法: 6つのグループに分かれて作業を行った。各グループ内で付箋紙と模造紙を使って意見をまとめ、グループごとに発表を行った。
- (3) 発表内容: 各グループの発表者が紹介した内容は以下のとおり。☆は特に活発に話し合われた項目。

【グループ 1】

- ・のんびり、リラックスできるような空間に。
- ・大き目のロッカーおよびメールボックスの設備。メールボックスは気付にできる。
- ・カラー印刷、カラーコピーを安価に出来る設備。
- ・多機能トイレ。
- ・AV 機器、IT、インターネットなどが利用できる場所。
- ・柔軟な使い方が出来るスペース。出会いを創出できるように。
- ・市民活動フロアのニュースを出す。
- ・スタッフに、コーディネーター的な力が欲しい。
- ・スタッフを早めに採用して欲しい。
- ・司書の方にも、市民活動に関心を持って欲しい。
- ・ボランティアセンターとの関連。

【グループ 2】

- ・「集う」場所→情報を持っている人、欲しい人が互いに集まる、仲間を募集したりすることができる場所に。
- ・市民活動に関する情報の発信・収集→「ここにすれば分かる」という場に。
- ・パソコンやロッカー、ポスタープリンターの設備

- ・駐輪場の設置
- ・図書館の本の返却が、3階の市民活動フロアでも出来るように。
- ・カフェが欲しい、飲食の出来るスペースが欲しい。
- ・活動立ち上げ支援
- ・総合案内にコンシェルジュを配置 (☆)
- ・ボランティアセンター機能
- ・武蔵境のまち情報の収集・発信 (☆)
- ・まちづくりのマップが出来ていたらよい(☆)

【グループ3】

- ・発表なし。(グループ構成員の多くが今回第1回ワークショップに参加していない者であったため、アクティビティの時間に、武蔵野プレイスについて概要説明を受けていたため。)

【グループ4】

- ・ミーティング、イベント開催が出来る場所が欲しい
- ・カラー印刷、大判プリンターが欲しい
- ・メールボックス、インターネット検索端末の整備
- ・ホッとする居場所→親と子がくつろげる場所、高齢者と若い世代が出会える場所など
- ・団体情報の発信、市民が発信された団体情報を受け取り、活動や相談ができるように
- ・専門家を置いた相談スペース→あらゆる市民の相談に対応できる (☆)
- ・調べものの相談に乗ってくれるような人がいれば良い(☆)
- ・環境への配慮→雨水利用や太陽光発電の利用状況が分かる設備、不用品交換ボードの設置など (☆)

【グループ5】

- ・人が集まる場所、拠点であること、市民の力を発揮できること→世代間交流、地域間交流、活動間交流、1人でもOK
- ・チラシが乱雑にならず、きちんとまとめられている
- ・和室→皆がゆったりとできる場所
- ・人を育てる場所→講座は重要
- ・語り部を育てる→武蔵野のこれまでとこれからを語り継ぐ人
- ・情報は集積するだけでなく、発信し、読み解いていくことが大切→パソコンは必須。
- ・大切なのは「気持ち」→排除しない気持ち、受け容れる気持ち、切磋琢磨する力、工夫、柔軟性

【グループ6】

- ・プチオフィス→ちょっとした打ち合わせや役員会などのレベルで、いちいち有料の施設やコミセンを予約するのは大変。
- ・メールボックスの設置。
- ・子ども関係のものがあれば、安心して活動できる
- ・ゆっくり、のんびりできる環境、ゆったりとしたソファなどがあれば、いい知恵が出たり活動が活性化したりするのでは？
- ・間接照明のコーナー
- ・夜7時以降、アルコール可のコーナー→ひとしきり活動をした後の一杯を楽しむ
- ・メール便集荷サービス

「武蔵野プレイス市民活動フロア 意見交換の^{プレイス}場」
(武蔵野プレイス市民活動機能 市民ワークショップ) 第2回実施報告書

- ・情報発信の手段を知りたい→市報への投稿やプレスリリースの出し方など
- ・プチビジネスサポート→税金、社会保障、NPO 設立などの相談や、パソコンソフトの使い方などのアドバイスが出来る職員を置いたり、特別なスキルを持っている人が誰だか分かるように。
- ・活動団体の「合コン」(☆)

(4) アドバイザーのコメント

各グループの発表には共通したものが見られる。人が気兼ねなく集え、人と人、人と団体、団体同士が関わりあえる場やつながりということを皆さんは重視しているのではないか。そうしたつながりの中から「相談」や「情報発信・収集」などの項目が、自然と出来てきて武蔵野市の活性化につながってゆくということではないか。

次第3：事務連絡

- (1) 次回日程：平成22年2月23日(火) 18:30～20:30 武蔵野スイングビル10F スカイルーム
- (2) 視察予定：調布市市民活動支援センター 平成22年1月13日(水) 14:00～16:00 現地集合
- (3) ワークショップ準備の会について：ワークショップを市民と事務局で共につくっていくための会として有志で「ワークショップ準備の会(仮称)」を作りたい。

閉会

閉会后～ワークショップ準備の会(仮称) 打ち合わせ

参加者：市民9名、事務局3名、アドバイザー

内 容：第1回準備会の日程調整…平成22年1月29日(金) 19:00～21:00に決定。